

ホタル学校だよ！

鳥川・ホタルの幼虫放流式



ホタル幼虫放流式典の様子

2019年3月21日、岡崎市ホタル学校にて恒例の「ホタルの幼虫放流式」を開催しました。主催者、来賓のあいさつの後、今年は「ホタルマスターファミリー講座」の講師を担っている「自然・環境学習実践隊」の皆さんと講座に参加した家族の代表の方に活動について紹介していただきました。実践隊メンバーからは、講座ではホタルのことを教えるのではなく、様々な環境教育プログラムを体験しながら、自らの力で段階的に理解を深められるように考えられていること、講座の構成は4月から9月までの毎月1回、それぞれその時期にあったテーマを掲げ、実体験を重視して実施していること、参加した皆さんだけでなく、自分たちも多くの気づきがあり、心の変化を感じたことが紹介されました。参加家族代表の方からは、小学2年生の娘さんと参加したこと、講師の皆さんがとてもやさしく、低学年でもわかるように進めてくれたので、すぐに楽しくなったことや、虫が苦手だった娘さんが、自分で網を振ってチョウを追っている姿に驚いたことなどが紹介されました。また、色んな体験活動に参加してきたけれど、この講座は自分たち親子に今までにない感動と学ぶことの楽しさを与えてくれ、特にうれしかったことは、娘さんが自然や生き物に興味を持ってくれたこと、そして、講座に参加してから家族の会話が増え、自然の中に出かけることが多くなったことなどを紹介してくれました。

ホタル学校では、保存会と協力して、ゲンジボタルの幼虫とそのエサとなるカワニナを生態観察できるように飼育しており、この飼育していた幼虫が「さなぎ」になる少し前に、本来いるべき川に戻すのが今日の放流式です。いつの間にか雨も上がりました。「元気だね！」と声をかけながら、そっと川に放ちました。



川辺に降りて幼虫とカワニナを放流



地元の方々による田舎汁のふるまい

最後に地元鳥川の方々に作っていた「田舎汁」をいただきました。猪のだしが出ていて大好評、とてもおいしくいただきました。

ホタルを通して、人々が集い、語り、食べる。こんな素敵なひと時に感謝します！

ホタル学校歳時記（No.19） 【ホタル保護で重要なこと】

ゲンジボタルの幼虫は、おもに河川の中流域に棲んでおり、水質が安定していないと生きられません。幼虫が生きていくためには、「農薬や家庭排水が混入したりしない。」、「溶存酸素量が豊富である。」、「瀬や淵のある多様な形態の河川である。」、「水系全体が長期間安定している。」、「カワニナが豊富に生息している。」、「カワニナの餌が豊富である。」ことなどの条件が整っていることが重要となります。

現在、全国各地でホタルに関する活動が盛んに行われていますが、養殖して放流するというものが多く見受けられます。生き物を育てることは、豊かな心や責任感を育む情操教育としての効果はあると思いますが、ホタルは、本来人が飼育するものではなく、様々な条件が整った自然環境が育てるものです。人工的にホタルを育てるのではなく、ホタルが生息できる森や水環境を保全したり、再生することこそが、「ホタル保護」で最も大切なことだと言えます。適切な保護活動を行うには、保護対象とする生き物の生態や生息環境をしっかりと理解していなければなりません。ホタル学校には、ホタルの生態や生息環境だけでなく、ホタル保護活動の歴史に関する資料などが展示されています。また、生態観察用にゲンジボタルの幼虫とカワニナを飼育しており、気軽にホタルのことを学習することができます。毎年多くの方がゲンジボタルの光の舞を見に来られますが、まずホタル学校を訪れ、ホタルへの理解を深めてからホタル観賞をしてもらいと思います。ホタルを通して、自然の大切や命の尊さを感じ、自然保護意識を高めていただければ幸いです。

（ホタル学校名誉校長・古田忠久）



3月16日(土)鳥川で開催！ おと川リバーヘッド大作戦

2019年3月16日、「おと川リバーヘッド大作戦」が、ホテル学校と鳥川町の山林を使って行われました。岡崎市の水道水の約50%を供給している乙川流域の水源地。この山林の機能回復を図りつつ、生命の源となる水の重要性を再認識してもらうため、市民参加で豊かな森林を再生することを目的に間伐体験や火起こし体験などを開催しました。

この日のイベントには約40名の親子が参加されました。まずはホテル学校にて開会式、水源林講座が行われました。当日は奏林舎の唐澤さんから水源林の説明、間伐の必要性、間伐材の活用方法や林業についてクイズ形式で楽しみながらのお話があり、子どもたちは勿論、親御さんも林業について初めて聞く内容が多く関心を持たれておりました。その後間伐の場所であるバラ園の奥まで移動し、間伐体験に入ります。参加者を5グループに分け、各グループに指導員が付き安全を考慮した上で間伐体験を行いました。のこぎりを初めて使う子どもたちも多く予想より時間が掛かりましたが、無事全グループ間伐することができました。再びホテル学校へ戻り昼食を挟んで火おこし体験を行いました。今回はマッチを使って着火を行いました。のこぎり同様マッチも初めて使用するという子どもが多いことが印象的でした。最後に竹パンづくりを行いました。竹にパン生地を巻き付け、焚火を利用してじっくりパンを焼いていきます。焼きたて、また自分で作ったということもあり皆さんとても美味しそうに食べておりました。最後に閉会式を行いこの日のイベントは終了。半日に渡り間伐体験や火起こし体験を行うことで、親子で生命の源となる水、そして森林の重要性を認識することができました。



リバーヘッド大作戦:活動の様子(鳥川町)



とっかわの年中行事

駒が嶽様

駒と言うから馬の神様の様であるが、ご神体は蚕の神である。上宮の裏山に小さい社殿がある。5月3日、午前中に行われ、僧の読経と一緒に氏子が集まりお参りする。昔は子どもが大勢集まり、時には出店も見られた。養蚕の盛んな頃は、大事な収入源だったので、虫のために、一番よい部屋を与え「お蚕さん」と呼び大切に「駒が嶽様」のお祭りも盛んだった。昔は「駒が嶽様」に繭が供えられていたこともあったそうであるが、最近では、繭さえも知らない子どもたちが多い。昔は神社などで行事があるごとに、子どもたちが、そのおさがりを目当てにしておおぜい集まったものだ。生活が豊かになった今、供物をもらいに来る子どもは少ない。

『とっかわの里』 著者 片岡禮子より



鳥川ホテルの里・星空コラム

春の夜、北の空を眺めてみると北斗七星が登ってきています。七つの星が水をすくう「ひしゃく」の形にきれいに並んでいます。水を入れる部分の端の2つの星を、線で結び、5倍延ばしたところにある星が北極星です。北極星は、その名のとおり北を示す星です。昔の船乗りは、この星を目当てに航海をしていました。でも、南半球からは北極星は見えません。地球が丸いと信じて、世界一周の冒険旅行に乗り出した、マゼランの勇氣はものすごいですね。ではどうやって、方角を知ったのでしょうか。やはり星の並びから方角を決めたのです。夜空に見える星のほとんどは恒星と言って、太陽のように自ら光る星で、動きません。星をつないで星座を作り、それを目当てに自分の位置を特定したのです。昔の人にとって星座が、いかに重要なものだったかが想像できます。現在でも、私たちは星からの情報で位置を特定しています。GPSがそれです。星と言っても人工衛星ですが、今も昔も星を頼りにしているところが、面白いですね。



北斗七星



人工衛星(みちびき)